

和の文化を受けつぐ（授業後ふりかえり）

目標

- (1) 筆者の和菓子についての叙述を基に、情報と情報の関係付けの仕方について理解することができる。
- (2) 筆者の主張に至る理由を三つの観点（歴史・他文化との関わり・文化を支える人）から正確に捉えて、論の進め方について考えたり、複数の文章を重ね合わせて関係付けたりすることができる。
- (3) 論の展開について気づいたことや複数の資料を重ねて読むことで分かったことを伝え合おうとする。

第二次



◎本文全体を一ページにまとめることで、段落どうしのつながりや論の進め方について考えることができた。

△読むことが苦手な児童にとっては、文字が多く抵抗感があったようである。

ポイント

筆者の論の進め方やそれぞれの段落の内容をおさえることで、第三次の学習につながる。

成果

ワークシートを工夫したり、文字以外の「かく」を取り入れたりしたことで、多くの児童が自分の考えを持とうすることができた。

单元の指導計画(全8時間)

時	学習活動	指導上の留意点	評価標準(評価方法)等
1	○学習の見通しをもつ。 題名(特に文化)について考え方、自分の身の回りにどんなものがあるのか書き出す。 ・全文を読み、感想を書いて出し合う。 ・单元のめあても知り、学習の見通しをもつ。	・ロイノートのシンキングツール(エッピング)を活用させる。 ・最終を提示し、和菓子の何を説明した文章のかたちを想像させる。 ・初歩的感想では、自分の想像した内容の違い、よく分からなかったことを出し合い、次時につなげる。 ・図表や資料の効果について考えることをつまみます。	
2	○文章の話題を確かめる ・段落ごとに番号を付ける。 ・「再掲」「本論」「結論」に分け、本論3つの視点ごとのまとまりであることを読み取る。 ・本論ごとに小見出しをつけ、内容のまとまりを捉える。	・それぞれの本論のはじめに提示された話題がどこまで続いているのかを、接続語に注目しながら考えさせる。	
3	○本論1の内容を読み取る。 ②～④段落を読み、和菓子の年表と本文のつながりを書き込む。	・ワークシートに本文と年表が対応するところを線で書き込ませる。 ・年表では明治時代以降「洋菓子が入ってくる」とまとめられているが、その後和菓子はどうなったのかを想起し、第7時につなげる。	○筆者の和菓子についての記述を基に、年表と年表の関係付けの仕方について理解している。 〔発言・技術〕 〔発言・ワークシート〕
4	○本論2の内容を読み取る。 ⑦～⑧から、和菓子と関わる他の文化を書き抜く。	・本論2は「和菓子と年中行事」、「和菓子と茶道」というまとまりに分かれることを捉えさせる。 ・文化を書き抜くだけなく、関わっている理由に注目させる。	
5	○本論3の内容を読み取る。 ・筆者の主張を捉えるために、⑨～⑩を読んで、和菓子を史える人を書き抜く。	・段落ごとに、誰についての記述などを明らかにさせ、今の人々がどのように文化を変えていったのかを書き抜く。	
6	○筆者の論の進め方について考える。	・筆者の論の進め方について考える。 ・個別落の「このように」が本論全体を指すことを捉えさせ、個別落の第一次のどの部分が本論が開拓するかを考えさせる。	○筆者の主張に至る理由を、歴史・他文化との関わり・それを支える人の3つの観点から、叙述を基に正統に捉えることと論の進め方について考えたり、複数の文章を重ね合わせて読んで関係付けたりしている。 〔思考力・判断力・表現力〕 〔発言・ワークシート〕
7 (本時)	○本文と資料を重ねて読む。 ・インタビュー記事と本文のどこが関連するのかを見つける。	・本論3との関連だけでなく、本論2や結論とのつながりに気づかせる。 ・インタビュー記事が本文の内容を詳しく説明しているところもあれば、その点もあることを捉えさせ、双方への矢印を書き込ませる。	○筆の展開についていたことや複数の資料を重ねて読むことで分かったことを伝えようとする。 〔主体的〕〔学習に取り組む態度〕 〔発言・ノート〕
8	○单元の学習をふりかえる。 ・筆者の論の進め方について考えたり、インタビュー記事を読みだしたことで、考えが深まることを書きまとめる。		

第三次



◎資料を読んで、本文とどこがつながるのかを考えることができた。また、表現としての共通点だけでなく、内容としてのつながりについて考える姿も見られた。矢印を書き込む活動にしたため、児童の心理的ハードルを下げるために思つた。

△「つながり」という言葉が何を指しているのか児童によって捉え方が異なっていた。ペアでの交流では、なかなか考え方の広がりが見られなかった。

ポイント

ただ矢印を引くのではなく、本文と資料を比較して、具体化と抽象化の関係について理解させる必要がある。そのためにも一つ例示することで活動内容を把握させたい。

課題

児童によって学習活動に対する理解の差があったため、素材的教材研究だけでなく、指導的教材研究を十分に行い、発問で児童に課題意識を想起させ、活動の見通しを持たせられるようにしたい。